

情報発信型コミュニケーション能力の育成（資料）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学資格課程事務室 公開日: 2017-08-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小沼, 俊男 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/18899

〔特別講演〕

「情報発信型コミュニケーション能力の育成」

こぬまとしお
講師：小沼俊男 別府大学短期大学部初等教育科教授

(明治大学経営学部 1961 年卒業)



NHK アナウンサーとして入局。帯広、名古屋、京都、東京アナウンス室にて社会、報道、教養、教育番組を担当。財団法人 NHK 放送研修センター日本語センター部長などを経て、現職。コミュニケーション論、表現技術。話しことば教育研究会主宰。

企業、教育機関職員等の人材育成に関する研修講師を務めている。PHP 認定ビジネスコーチ。

現在、明治大学リバティアカデミー講師。

〔講演概要〕

1. 現代社会が求める言語活動能力

(1) 一部上場企業対象のアンケート「職場におけるコミュニケーションの問題点」

(2) ジェトロ（日本貿易振興会）コミュニケーション研究委員会の提言

「世界に通じるビジネス・コミュニケーションを」

(3) 就職戦線における人材評価の観点

コンピテンシー（成果をあげる能力）の測定

2. 社会が求める言語力と学生の言語力とのギャップを埋める手立て

(1) 目標の明確化～コーチングマインドによるサポート～

(2) パブリック・スピーキングの育成

～コミュニケーションギャップの原因を解消する～

① 「何を」「どう」伝えるのか 論理表現を身につける

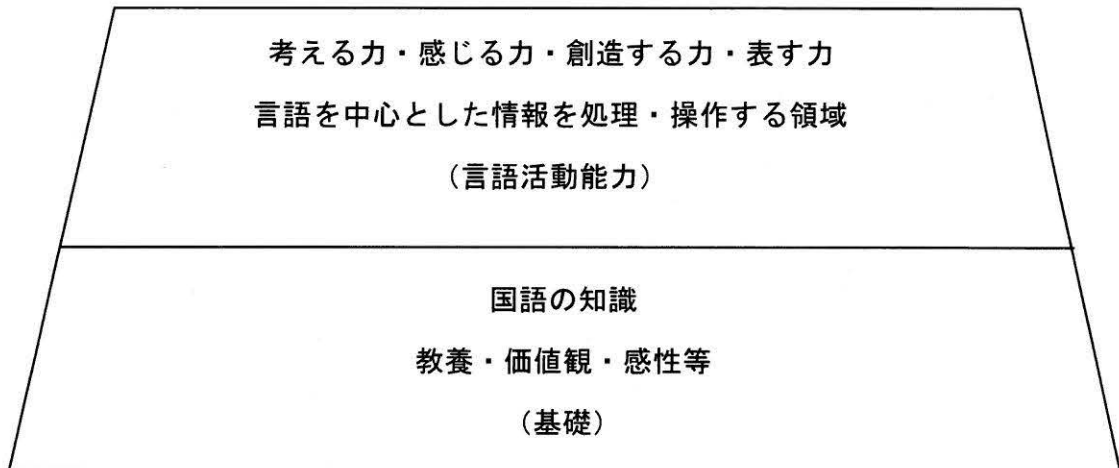
「何を」一場・相手・目的を考え、何を話すのかを明確にする

「どう」一結論先行・事実と意見の区分け

② 情報収集能力—相手のニーズ・ウォンツを掴む

3. 新しい学習指導要領を読む

全教科の課題として位置づけられた言語活動能力の育成



この二つの領域は、相互に影響し合いながら、各人の国語力を構成しており、生涯にわたって発展していくものと考えられる。

(文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」より)

4. 自分のことばの獲得に向けて

独立行政法人教員研修センター委嘱事業 調べ学習 DVD 教材制作

「深め発見する喜び～言語力とメディア活用能力の向上を目指す教師の支援～」より

5. ひとつの星を見る

世界平和を願い核廃絶に心血を注いだ湯川秀樹博士・スミ夫人

以上

《 特別講演 》 参考文献

「深め発見をする喜び～言語力とメディア活用能力の向上を目指す教師の支援～」(DVD/解説書) 制作：別府大学 (平成20年3月31日発行)

「ビジネス・コーチング」

著作：田近 秀敏 発行：PHP 研究所 (平成15年9月26日)

PHP 研究所認定ビジネスコーチ認定文献

「ニュースよ日本語で語ってほしい」

著作：松岡 由綺雄 発行：兼六館出版 (平成4年7月23日)

ひとつの星を見る

小沼俊男

25年前、私がNHK京都放送局でアナウンサーとして勤務していたときに、湯川秀樹博士とスミ夫人にインタビューしたことがある。

当時湯川博士は、2回の手術を受け闘病生活を送っていたが、経過もよく自宅で静養されていた。お元気になられた湯川博士の様子をテレビで紹介するというもので、ご夫妻にお話を伺った。

湯川博士は、手術後、5年が経過しているということから、もう大丈夫と、ほっとしているご様子だった。

湯川博士：5年間の闘病生活では、強気になったり弱気になったり、何もかも面倒くさくなってきたこともありましたが、家内も含めて人の気持ち、真心を深く知ることができました。これはこれで非常に得るところがあったと思います。病室では、家内といろいろな話をしました。家内は、自分の身体をそっこのけにして私の身体を心配して看護してくれました。

スミ夫人：皆さんに物理の方で認めて頂いているのに、いま死んだら大変だと思って、私ばどうでもいいから、とにかく生きてもらいたいと思いました。アインシュタインやラッセル、そして秀樹さんは、核兵器をなくしてしまわなければダメだということをお話していますが、本当のことを知らない方が多く、身近なことだけ考えている。そうじゃなくて、地球全体が大変な世の中になっているということ、秀樹さんの口から皆さんにお伝えしなければいけない大事な身体だと私はそう思いました。私だけではなくて、世界、地球全体のために生きてもらわなければならないと思いました。

小沼：核兵器をなくし世界平和を実現させることを、ご夫妻でお考えになっているというのはすばらしいことですね。

湯川博士：世界連邦運動にしましても、早くから家内は共鳴しておりました。私は、20年ほど前に縁があって世界連邦世界協会の会長におされました。家内も世界連邦運動に加わることになりましたね、日本の会長を長く努めたんです。最近では世界協会の副会長におされましたので、まだまだ世界連邦のために頑張らなければならないと家内は一生懸命にやっていますわ。

スミ夫人：昭和二三年ですけど、アインシュタインとお目にかかったときに、アインシュタインは両手で秀樹さんと私の手を握って、ポロポロ涙を流して「世界が平和でなければ、核兵器が出来てしまったら大変なんだ」ということをおっしゃいました。そのときに、秀樹さんから、「人類の半数以上は女だから君も世界平和のために努力してほしい」と言われました。日本で考えますと、女がしゃしゃり出たらいけないと思ったんですけれど、そう主人も言いますから、そのときから世界連邦に参加した訳です。(略)

こうして湯川秀樹ご夫妻にお話を伺った翌年の昭和56年9月8日、NHK京都放送局放送部に「湯川博士死去」の情報がいった。第一報は、三宅民夫アナウンサーが報じた。「日本で最初のノーベル賞受賞者、湯川秀樹博士が急性肺炎と急性心不全のため、きょう午後2時すぎ、京都市左京区下鴨の自宅で亡くなりました。74歳でした」。ニュース班は、続報体制に入り、番組班は、夜の追悼番組の準備に入った。特別番組「湯川秀樹博士逝く」は、午後10時30分から30分間全国に放送された。京都放送局のスタジオには、京都大学名誉教授 桑原武夫氏、京都大学教授 井上健氏、東京のスタジオには東京大学元総長 茅誠司氏を迎えた。司会は私が担当した。

三氏のお話は、湯川博士の業績は、日本の物理学への貢献にとどまらず、日本人としてはじめてノーベル物理学賞を受賞したことで、戦後の日本国民に大きな自信を与えたこと、また、科学者の立場からも平和運動にも情熱を注ぎ、核兵器の廃絶と平和への願いを、吐界各国の人々に訴え続けた偉大さが語られた。…

京都放送局が悲しみに包まれたあの日から24年目の今年4月、東京の電車内(井の頭線)で、湯川スミさんの記事広告「湯川スミさんが語る平和への思い」というタイトルが目に入った。早速その本を求めた(「パンプキン」潮出版社)。95歳のお元気の湯川スミさんの姿がそこにあった。記事では、欧米各国の世界連邦論者と連絡を取り合い、世界の首脳たちに平和のメッセージを送り続けていること、また、今年3月沖縄で行われた世界連邦のシンポジウムでは沖縄から世界へ平和を訴えるなど世界連邦の仕事を精力的に進めているスミ夫人の様子が伝えられていた。湯川博士から託された核廃絶の志を持ち続け、いまなお活動を続けているのである。スミ夫人の平和な世界を求める並々ならぬ強い意志を感じる。このような湯川ご夫妻の生き方に人間の生き方としての理想郷を見る思いがする。

ご夫妻は「核廃絶」に対する共通の価値観を持ち、それによって世界平和を実現させるというビジョンを描いた。そして、男女であるとか国の違いという枠を越えた人類愛の視点から「世界平和」を考え世界連邦の先頭に立って訴え続けている。「世界平和」という「ひとつの星」を見つめて心血を注いでいる。

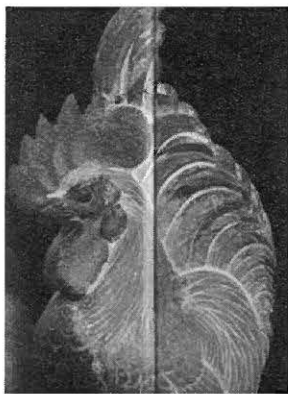
世の中にあるもめごとは、それぞれが、別々の星を見つめていることに原因がある。国と国、人と人が揺るぎのない価値基準を持ち大きなひとつの星を見つめれば、状況は変化するに違いない。博士亡き後も、スミ夫人がお二人の中にある「ひとつの星」を追い求めている姿は感動的である。ご夫妻から学ぶことが多い。

(月刊国語教育 平成17年9月号より)

気の極意～双葉山～

双葉山ってどんな人？

不滅の69連勝を記録した、大分県唯一の横綱である。晩年は時津風理事長として活躍した。



木鶏もっけい

ワレイマダニモッケイニアラス

この言葉は、連勝がストップしたときによき理解者であった、陽明学者の竹葉秀雄氏に送った電報です。

双葉山は、木鶏の様な徳が充実した姿で相撲をしていたが、連勝がストップしたことにより双葉山の目指していたそのスタイルに届きませんでした。



心・気・体

通常、スポーツをする上では、心・技・体が有名ですが、双葉山は技を極めていくのではなく、気を極める。つまり、内面から強くして、相撲を取っていきました。そうして、双葉山は69連勝という歴史的な快挙を成し遂げました。

